

# 考えよう 野菜・技術



北部営農センター農産課  
営農主幹 堀田 行敏

## 私

もニューヨークカー

数年前の朝、NH

Kで若いニューヨークカーが家庭菜園にいそしみ、採れたての超新鮮野菜で食卓を彩るのが、最近のトレンドだ！というニュースを観ました。

「これだ！」と思い、自らベビーリーフを育て始め、週末の朝はニューヨークカー気分。

つくる人しか味わえない、「採れたてを味わえる贅沢」。

私の野菜振興のキーワードに加え、プランター菜園を通して職員を菜園好きに洗脳中です。



外葉から2枚ほどをかきとって食べ続けます

## 観

察しよう〜野菜の美しさ

野菜をつぶさに眺めたこと  
はありますか？

元気なイチゴの葉縁で、朝日に水滴が輝いているのを。キュウリのいぼが、透明な針山のように朝日にきらめくのを。野菜たちは、日々、美しい姿を見せてくれます。

あなたも、癒しのひとときを楽しんでみてください。



## 基

本の大切さ

農学は科学であり、実用学といわれています。施肥を例にみると、植物ごとの生理に基づいて吸肥量はほぼ決まる科学であり、土質や降雨による肥料の流亡に応じて追肥量を調整する必要がある実用学です。

先人たちが積み重ね確立してきた基本技術は、追肥のタイミングのように、理論に裏打ちされた理由があり、それを知ったうえで実践すべき技術と言えるでしょう。

ただ、世の中のシステムに完璧なものはありません。新たな技術の登場や省力化を図るために、技術は合理化されたり、時代とともに、進化しています。そんな技術の一つにセル成型苗があります。地で育苗していたキャベツを始めとした葉菜類の育苗を、合理化して苗の運搬や定植作業などの省力化を図られ、定植機の開発とあいまって定植作業の繁忙から解放されました。



## 失

敗のススメ

技術が進化しているということは、改善の余地がまだまだあるということです。日頃の農作業の中で、疑問に思うことを試してみてください。人に聞いて、上手くいかなかったとき、責任を転嫁しては成長できません。自らの意思で試し、失敗した時、その原因や要因を考え、本当の失敗か、改善の余地があったのかを考えることが大切ではないでしょうか。失敗や経験から学ぶことは大きく、成長のチャンスです。

私の担当する就農塾では、担当者と連携して疑問を圃場で試し、塾生のみなさんに考えてもらうように取り組んでいます。

昨年の秋冬野菜では、適正な株間・植え付けの深さ・微量要素の効果・播種機の利用・肥料のトップドレスなど、いろいろ確認してもらいました。

疑問を少しでも試していろんなことを考え、気づきを増やし、成長しましょう。

※植物の上から撒くこと。通常は障害が起る。

ご挨拶が遅れましたが令和2年4月から当JAでお世話になっている堀田です。どうぞよろしく申し上げます。農業は脳業でして、これから品種やいろんな作業の意味などについて考えてみたいと思います。